



小千谷市立小千谷中学校

◆学校データ

【学級数】	20 学級
【児童生徒数】	474 人
【地域コーディネーターの有無】	無

地域と進んで関わり，積極的にコミュニケーションが取れる生徒を育てる

1 はじめに

小千谷中学校は，来年度創立 75 周年を迎える。信濃川左岸に発達した段丘地形に位置し，市街地に隣接している。校区には，古くからの住民と新興住宅地に住む住民とが混在している。

当校では，生徒，保護者，職員の思いを基に，谷中生に育む三つの資質・能力として「①明日に向かって挑戦する力」，「②思いや考えを伝える力」，「③自分で問題を解決する力」を設定し，すべての教育活動を通して育成することを目指している。「地域との連携」を「知・徳・体」のすべての学びの基盤として位置付け，「地域と進んで関わり，積極的にコミュニケーションが取れる生徒を育てる」ことを重点目標として取り組んでいる。

2 取組の実際

(1) 総合的な学習の時間の計画の見直し

中越大震災から 17 年。現在の中学生にとっては，経験していない震災であるが，単なる過去の出来事で終わらせてはならない。震災に苦しみ，復興のため必死に取り組んできた人々の思いを自分事として深く理解し，地域のためにできることを考え，実践することが重要である。

そこで，令和 3 年度より総合的な学習の時間では「防災・地域理解」を柱にし

た内容に見直しスタートした。

① 第 1 学年「地域に生きる人々」

震災当時の被害の様子や復興に携わった人々の努力や苦労を知り，震災への理解を深める。また，高齢者や障がい者等への配慮について学び，地域の災害弱者への適切な支援を考える。

② 第 2 学年「防災について考える」

災害が起きたときの心構えや，避難の方法について学ぶ。地震の被害にあった地域を訪れ現地調査を行い，中越大震災と比較するなどの活動を通して，防災について，幅広い知見を身に付ける。

③ 第 3 学年「地域と私」

これまで学んだことを基に，災害時の対応について再確認し，災害時に自分が地域のためにできることを考え，地域の防災訓練に主体的に参加し実践する。さらに，3 年間の学びを振り返り，地域を大切に思う気持ちや，これから地域の一員としてどのように生きていくかを考え，その決意を表現する。

(2) 総合的な学習の時間における実践

① 中越大震災を知る(第 1 学年)

はじめに，中越地震による小千谷市の被害状況を調査した。生徒は，家族へのインタビューやインターネットでの調べ学習を通して，改めて地震による被害の大きさを知った。

その後、おぢや震災ミュージアム「そなえ館」から講師を招聘し、防災講話を行った。映像資料等を用い、震災当時の体験を語ってもらった。



防災講話の様子

その中で、避難時の様子、避難所での生活、復興に掛かった時間や苦勞、災害へのそなえなど、生徒の様々な疑問に答えていただくことができた。

② 福祉体験学習(第1学年)

小千谷市社会福祉協議会の協力を得て講演会を実施し、地域の高齢者や障がい者が困難に感じていることや、災害時に必要な支援について学んだ。その後、市内のボランティア団体に依頼し、手話や点訳の体験学習を行った。

生徒は、地域には様々な人が支え合って生きていること、特に災害時には多くの支援が必要であることを知り、自分も支援者の一人となり役立ちたいという思いを強くした。



点訳体験の様子

(3) リサイクル活動(生徒会)

5月、生徒会とPTAが連携し、リサイクル(古紙回収)活動を行った。毎年恒例となっている活動であるが、今年度は「地域に貢献する」活動として目的を見直し、生徒全体で共有した。生徒は町内の各世帯に予告のチラシを配り協力を呼び掛けた。当日はPTAから自家用車で運搬を支援していただいた。収益金の使い道につい



非接触型体温測定器を寄贈

ては生徒会で検討し、「非接触型体温測定器」を小千谷総合病院へ寄贈した。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

地域と関わる活動は感染防止のため多くの制約を受けたが、工夫してできる範囲で実施した。生徒アンケートでは、「地域の方の話を聞いたり、関わったりする活動を通して、地域の良さを知り、地域の人の温かさを感じたか」の設問に対し、95%以上が肯定的に評価した。この結果から、育成する資質・能力「②思いや考えを伝える力」を発揮し、地域とコミュニケーションをとることができていたと判断できる。

リサイクル活動は、生徒会が中心となり企画・運営し、生徒主体の取組となった。活動後、地域の人々の役に立てたことを喜ぶ声や、古紙を提供してくださった地域の方々や活動を支えてくれたPTAに感謝する声が聞かれた。この姿から、育成する資質・能力「①明日に向かって挑戦する力」、「③自分で問題を解決する力」が育まれたと考える。

総合的な学習の時間を「防災・地域理解」を3年間を貫く柱として設定し、内容を見直したことで、各学年の学習に一貫性が生まれ、3年間を通して段階的に資質・能力を育成することが容易になった。今年度スタートしたこの計画は、随時修正を加えながら、よりよいものにしていきたい。

(2) 終わりに

地域への愛着や誇りは、地域に触れ、地域の人々の温かさの中で育まれる。一方、コロナ禍で地域と交流する機会がもちにくいことが課題である。このような中でも生徒の資質・能力をよりよく育むため、ICTを活用するなど、効果的な地域連携の内容と在り方を探り続けていく。